

3. 会場との意見交換

参加者 A :

WIN のすばらしい活動に感銘を受けた。あえて苦言を申し上げるなら、女性だけの組織として、男性を正会員ではなく賛助会員とするのは差別である。第 1 の質問は、これまで、男性に対する差別だと法的に訴えられた事はなかったか。2 番目のコメントは、男性も含む形に名称を変えてはどうか？WIN と同じように成長してきた原子力の若い年代の団体に YGN がある。ここは男女ともに入会を認めているので大変良い。

イオン :

イギリスには男性だけの組織も女性だけの組織もある。特に差別と問題視されたことはない。また、WIN には男性も参加して良い。一方女性は地域社会とコミュニケーションしやすいこと、この業界では女性が少ないため女性の意見が通りにくいこともあり、このような組織の意義はある。

松原 :

日本の原子力分野は大多数が男性であり女性は珍しい存在である。かなり高い技能がなければ採用され難い。女性の数が少ないのでこのような組織があるのでは。

小川 (WIN) :

WIN は男性に対してもオープンである。申し込み用紙があるので早速入会されたい。WIN-Japan は女性を正会員、男性を賛助会員にしている。日本原子力学会の女性の割合が 2% と極めて低く、男性会員ばかりの組織になることを避けるため男女の会員に差をつけている。これからは若者の啓蒙が重要であり、WIN は女性だけでなく若者や子供達に対しても原子力に関心を持ってもらえるように活動している。

参加者 B :

女性が男性より少ないのは確かであるが、原子力に反対する女性が多い。女性に対しては、原子力についてどう説明するのが効果的か、ご指南願う。

イオン :

イギリスでも女性が否定的な意見を持っている場合がある。男性は理論的に説明すれば理解が早い。女性は、ハードな問題ではなくソフトな問題（環境等）の方に興味を持っている。地球温暖化、CO2 排出量、安全性、電気やエネルギーがなくならないようにするための方策等を説明する効果的である。しかし、政府や大企業の名前で女性を説得することは難しい。放射線やエネルギーについては、学校教育の段階から Yes-No ではなくオプションを示して対話することが望ましい。

参加者 C :

廃棄物処分は都市から離れた地域で検討されるが、そのような地域でも対話は必要になる。ウェブを利用することを考える場合、どのような Keyword が女性をひきつけるかを調査したことがあるか？

イオン :

大変良いご指摘だと思う。ウェブや Google サーチの活用等、IAEA でも議論している。IAEA が非常に良い資料を出しているが、検索方法が女性にとって使いやすいものにはなっていない。今後その辺りを検討することが大切だと思う。

松原 :

女性は、放射線が DNA に及ぼす影響や、どうすれば自分の身を守ることができるか等に関心が高い。放射線の生物学的影響を詳しく説明すると良いだろう。政府等から様々な資料が出ているが、女性が知りたいポイントを抑えているだろうか。相手が本当に知りたい情報を提供するためには、双方向の対話が必要である。

ピケット :

女性がどのようなウェブに関心を持つかは重要である。地方で距離が離れているのでウェブを使う。日本には反対派の女性も多いので、良い提案だと思う。

参加者 D :

フライト・アテンダントはほとんどが女性であるが、宇宙線の影響は調査されているか。

松原 :

疫学調査は実施している。宇宙線には中性子線が含まれ、これはガンマ線よりも影響は大きい。高高度では地上よりも線量が多少高くなるが、総線量で見るとそれほど高くはない。生物は宇宙線環境で進化してきたので、ある程度、自然治癒、回復機能がある。人体には多重の保護プロセスがあり、一つヒットしただけで癌になるわけではない。このため、宇宙線の影響が顕著になることはない。

菊山 :

航空業界では、飛行回数等の規定はあるか。

松原 :

制限はある。それを超えないようにする。但し、その制限レベルでも線量は一般人より少し高い程度である。

参加者 E :

原子力工学科で 10 年程教鞭をとっている。現在の学科長は Jasmina Vujic 教授という女性である。先日、学科のブースを設けて学生に説明した。1995 年当時には学生がブースに来ることはなかったが、今回はたくさんの学生が立ち寄り、半数以上が女子学生だった。明らかに状況が変わってきている。また、原子力工学科の女性の学生も増えている。放射性廃棄物の分野では学生の 7 割が女性である。この良い変化を継続するため、大学として支援できることがないか伺いたい。

菊山 :

米国では原子力工学科に女性を引き込むため、何かしているか。

ピケット :

詳しくは知らないが、奨学制度等を中学 / 高校から大学に継続するようなことか。また、良いロールモデルを後輩に見せて、後に続いてもらうこと、男性、女性を問わず、科学、数学等についてコミュニケーションする中で、面白さを伝えてゆくこと等が考えられるのでは。

松原 :

サイエンスを専攻する女性はたくさんいるが、卒業した後で社会に出て、女性が中々昇進できないことが問題ではないか。女性にチャンスを与える社会の仕組みが必要なのではないか。

菊山 :

まとめとして、女性は男性よりもコミュニケーション能力に長けている。原子力、環境に対する関心が高まる中で、より良い対話が望まれており、女性のコミュニケーション能力をもっと活用すべきである。また、理工系を専攻する女性が増える環境を整える必要がある。原子力産業界だけでなく、社会全体に良い影響があるだろう。